

## イメージを重ねて

三宅智子  
(幼稚園教諭)

私は大学卒業後、東京都の公立幼稚園で働いており、今年度は三十五人の元気がいっぱいな年長組の子どもたちを担当しています。年長組に進級し、新入園児も加わってスタートした一学期。その中で子どもたちが繰り返し楽しんだ遊びの一つだった「リニアモーターカー」の遊びを振り返ってみたいと思います。

## リニアモーターカーが作りたい

「大きい電車が作りたい。本当に走るようにしたいんだ」とA児が言いに来ました。「僕も」とB児も一緒です。「どんな電車にした

いの？」と聞くと、「リニアモーターカーがいい」とA児が答えました。そこで、三人で図鑑で探してみることにしました。A児は電車のページの中からすぐに見つけ、「あったあつた！ すごく早いなだよ」と指さして説明を始めました。B児は、図鑑を見ながらA児の熱い説明を聞き、「かっこいい。いいね、これにしよう」とうれしそうにしています。「何で作ろうか？」と聞くと、「タイヤを付けて動くようにしたい。材料の部屋にあるのを使う！」とのこと。教室にあるキャスター付きの平板(台車)を、昨年度の年長組が使っている



ある日、「先生、帽子の作り方教えて」と、A児がD児と一緒にやって来ました。帽子というのは、運転手の印としてかぶっている、紺色の画用紙で作った帽子のことです。「うん、一緒に作ってみよう」と画用紙を折って一緒に作ることにしました。A児は以前一度作っているのです、D児に教えてあげています。D児が帽子をまだ作っていなかったことに気が付き、二人で作りに来たようでした。形が出来る上があると、「ここに電車の絵を描いて貼るんだよ」とA児。D児は自分で描いた絵を貼るとうれしそうにかぶり、二人でリニアモーターカーの所へ戻り、再び遊びました。A児の友達に対する優しさや、仲間とのつながりを感じながら遊びを楽しんでいる姿をうれしく思いました。

### 旗が上がったら出発ね

リニアモーターカーを廊下で走らせながら

遊んでいると、隣の年中組さんが段ボールを引いてやって来ました。段ボールには引つ張れるようにひもが付き、側面にはクレヨンで模様を描いてあります。C児が「ここはリニアモーターカーの線路だからだめ」と言うと、リニアモーターカーをじつと見ています。私  
が「年中組さんも乗りたいのかな」と言うと、「乗るのならいいよ」と、保育室から椅子を持ってきて駅に並べ始めました。やって来た年中組さんも、早速椅子に座っています。線路をぐるっと回り、次の駅に着いたら、次のお客さんと交代するというコースです。うれしそうな年中組さんを見て、A児も引く手に力が入るようでした。私が言葉を掛けると、乗る時には車体を押さえてあげたり、ゆっくり引つ張ってあげたりと、相手の動きを見ながらかかわる姿も見られました。お客さんは途切れず、順番に乗せてあげて遊んでいると、C児が思い付いたかのように、急いで保育室

に入り、製作コーナーで何かを作りだしました。しばらくして戻ってきたC児の手には、画用紙を丸めた棒に赤い京花紙を付けた旗が握られています。それをD児に渡すと、「これが出発の合図だからね！」と勢いよく話しました。聞いていると、その旗を上げたら、線路の安全が確認できたという印だ、ということでした。手作りの棒を持って交通整理をしているC児の合図を見てD児が旗を上げ、A児が引っ張る、という流れをC児は考えたのでした。D児は「わかった！」と言って、C児を一生懸命見ながら旗を上げました。それを見て出発するA児。時々お客さんのことを忘れてしまっているのでは、というほど、互いの動きをよく見ていました。片付けの時間になる頃には汗びっしょり。「大人気だったね」と話をしながら、満足そうに車庫にリニアモーターカーを停車させていました。

年少組の時から、作る楽しさ、作って遊ぶ楽しさの経験を重ねてきた子どもたちは、作って遊ぶことが大好きで、毎日いろいろな物を作ってはイメージを膨らませて遊んでいます。年長組になり、物や言葉を媒介にしなから、友達とイメージや目的を共有しながら遊ぶことを楽しむ姿も少しずつ見られるようになってきました。今年も学級編成替えがあり、新しい友達との出会いもたくさんありました。それぞれが遊びを楽しみむ中で、友達とのかわりを広げていく姿が見られています。

子どもたちと過ごす生活は毎日が驚きや発見の連続で、子どもたちの豊かな感性や、真つすぐな気持ちに触れ、心が温かくなります。子どもたちの気持ちに寄り添いながら、一人ひとりの育ちにつなげていけるように、これからも学び続けていきたいと思えます。